

スマート シティにおける超高齢 社会の防火安全対策の在り方

— 火 災 予 防 審 議 会 答 申 —

令 和 3 年 3 月

火 災 予 防 審 議 会
東 京 消 防 庁

はじめに

東京消防庁管内における火災による死者の約9割は住宅で発生し、そのうち約7割は高齢者が占めています。また、今後、高齢化率の更なる上昇が予想されていることから、高齢者を中心に住宅火災による死者の増加が危惧されています。

東京都では、「3つのシティ（セーフシティ、ダイバーシティ、スマートシティ）」の実現に向け、『未来の東京』戦略ビジョン」を策定し、その中で、「犯罪、事故、火災への対処、病気への備えなど、暮らしの安心が守られた東京」を2040年代に目指すビジョンとし、その実現のために2030年に向けて取り組むべき戦略として「安全・安心なまちづくり」を示しています。

東京都の掲げる「スマートシティ」を目指す上で、将来の住宅について想像し、住宅の防火安全性を現在以上に向上させるための方策を確立することが必要となってきます。

このような状況を踏まえ、令和元年7月、東京都知事から火災予防審議会に対し「スマートシティにおける超高齢社会の防火安全対策の在り方」について諮問がなされ、令和3年3月に答申をいただきました。答申では、今まで実施していた住宅防火対策の継続的な実施とスマートシティに向けた新たな方策について、それぞれ具体的な提言がなされています。

東京消防庁といたしましては、本答申内容を今後の住宅防火対策に反映させ、積極的な予防行政を推進して参りたいと考えております。

結びに、新型コロナウイルスの世界的な蔓延というこれまで経験したことのない社会情勢の中、本答申のためにご尽力いただきました火災予防審議会の中林会長、長谷見副会長、人命安全対策部会の野口部会長をはじめ、各委員の皆様に深く感謝申し上げます。

令和3年3月

東京消防庁
消防総監 安藤 俊雄

まえがき

本内容は、令和元年7月1日、東京都知事から「スマート シティにおける超高齢社会の防火安全対策の在り方」について諮問を受け、2年間の審議・検討を経てまとめたものです。

東京都の長期戦略である「『未来の東京』戦略ビジョン」では、「超高齢社会」を迎える東京において、様々な課題に、適切に対処していく必要性が求められています。

そこで、人命安全対策部会では、火災調査結果の分析を実施し、住宅火災における危険要因を検討し、ハード面及びソフト面の課題を抽出しました。

そして、個人の情報リテラシーの違いや経済的な理由等様々な事情により新しい住宅防火対策が導入できない人に配慮しつつ、新しい技術を活用し解決する方策について検討を重ねてきました。

今回の諮問テーマである住宅防火は、定量化が困難な危険要因の影響が大きく、議論の終結を示すことが困難な課題があったことも事実です。

しかし、本答申は、今後、高齢化率の更なる上昇が予想され、高齢者を中心に住宅火災による死者の増加が危惧される中、新しい技術を導入した効果的な防火安全対策について検討を行ったものであり、住宅防火に携わる関係者の皆様に広く活用されることを期待しております。

おわりに、コロナ渦における Web 会議での審議や新しい生活様式への変化が余儀なくされる中、本答申の作成にあたり、ご協力いただきました当部会委員及び東京消防庁をはじめ関係各位に、心から感謝申し上げます。

令和3年3月

火災予防審議会 人命安全対策部会
部会長 野口 貴文

火災予防審議会 委員名簿

(敬称省略・順不同)

- 1 会長 中 林 一 樹 (首都大学東京名誉教授)
- 2 副会長 長谷見 雄 二 (早稲田大学理工学術院教授)
- 3 部会長 野 口 貴 文 (東京大学大学院教授)
- 4 部会長 糸井川 栄 一 (筑波大学教授)
- 5 委 員 安 藤 広 志 (新宿区危機管理担当部危機管理課長)
＜大 塚 尚 史 (江東区総務部危機管理室防災課長)＞
- 6 " 伊賀川 治 (一般社団法人住宅生産団体連合会調査部長・国際部長)
- 7 " 池 上 三喜子 (公益財団法人市民防災研究所理事)
- 8 " 市 古 太 郎 (東京都立大学大学院教授)
- 9 " 猪 口 太 一 (東京都総務局総合防災部長)
＜有 金 浩 一＞
- 10 " 伊 村 則 子 (武蔵野大学教授)
- 11 " 大 宮 喜 文 (東京理科大学教授)
- 12 " 大 佛 俊 泰 (東京工業大学教授)
- 13 " 鍵 屋 浩 司 (国立研究開発法人建築研究所上席研究員)
- 14 " 加 藤 孝 明 (東京大学教授)
- 15 " 唐 沢 かおり (東京大学大学院教授)
- 16 " 佐 野 いくお (東京都議会警察消防委員会委員長)
＜石 毛 しげる＞
《山 内 晃 》
- 17 " 佐 野 友 紀 (早稲田大学人間科学学術院教授)
- 18 " 首 藤 由 紀 (株式会社社会安全研究所所長)
- 19 " 白 石 暢 彦 (消防庁予防課長)
＜鈴木 康 幸＞
- 20 " 鈴 木 恵 子 (消防研究センター主任研究官)
- 21 " 鈴 木 理 (東京都都市整備局市街地整備部防災都市づくり担当部長)
＜三 宮 隆 ＞
- 22 " 田 中 淳 (東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センターセンター長)

- 23 " 玉 川 英 則（首都大学東京大学院教授）
- 24 " 西 澤 真理子（リテラジャパン代表）
- 25 " 平 田 京 子（日本女子大学教授）
- 26 " 廣 井 悠（東京大学大学院准教授）
- 27 " 藤 野 珠 枝（主婦連合会）
- 28 " 古 川 容 子（一般財団法人日本建築センター）
- 29 " 細 川 直 史（消防研究センター技術研究部長）
- 30 " 宮 崎 緑 （千葉商科大学教授）
- 31 " 村 上 隆 史（一般社団法人エコーネットコンソーシアム技術委員長）
- 32 " 山 岸 敬 子（明治大学専門職大学院教授）
- 33 " 山 崎 登 （国士舘大学教授）
- 34 " 山 崎 弘 人（東京都都市整備局市街地建築部長）
- <青 柳 一 彦>
- 35 " 渡 辺 美智子（慶應義塾大学大学院教授）

（注）< >内：前委員

 《 》内：前々委員

火災予防審議会 人命安全対策部会委員名簿

(敬称省略・順不同)

- 1 部会長 野 口 貴 文 (東京大学大学院教授)
- 2 委 員 伊賀川 治 (一般社団法人住宅生産団体連合会調査部長・国際部長)
- 3 " 大 宮 喜 文 (東京理科大学教授) ●
- 4 " 鍵 屋 浩 司 (国立研究開発法人建築研究所上席研究員) ○
- 5 " 唐 沢 かおり (東京大学大学院教授) ○
- 6 " 佐 野 いくお (東京都議会警察消防委員会委員長)
＜石 毛 しげる＞
《山 内 晃 》
- 7 " 佐 野 友 紀 (早稲田大学人間科学学術院教授) ○
- 8 " 白 石 暢 彦 (消防庁予防課長)
＜鈴木 康 幸＞
- 9 " 鈴 木 恵 子 (消防研究センター主幹研究官) ○
- 10 " 西 澤 真理子 (リテラジャパン代表)
- 11 " 長谷見 雄 二 (早稲田大学理工学院教授)
- 12 " 藤 野 珠 枝 (主婦連合会) ○
- 13 " 古 川 容 子 (一般財団法人日本建築センター) ○
- 14 " 宮 崎 緑 (千葉商科大学教授)
- 15 " 村 上 隆 史 (一般社団法人エコネットコンソーシアム技術委員長) ○
- 16 " 山 岸 敬 子 (明治大学専門職大学院教授)
- 17 " 山 崎 弘 人 (東京都都市整備局市街地建築部長)
＜青 柳 一 彦＞
- 18 " 渡 辺 美智子 (慶應大学大学院教授)

(注) ＜ 〉内：前委員、《 》内：前々委員、

●：小部会長、○：小部会委員

スマート シティにおける超高齢 社会の防火安全対策の在り方

－ 火 災 予 防 審 議 会 答 申 －

目 次

第 1 章	審議の経過	1
第 1 節	諮問事項	1
第 2 節	審議の流れ	2
第 3 節	審議経過	2
第 2 章	住宅火災の実態	5
第 1 節	住宅火災の実態	5
第 2 節	平成 21 年から 30 年までのデータから読み取る傾向	9
第 3 節	定性的な分析から見た助かる要因・危険要因	22
第 3 章	東京消防庁における住宅防火対策	31
第 1 節	近年までの主な検討	31
第 2 節	現在の対応	32
第 3 節	取組の効果	38
第 4 章	スマート シティの展望	43
第 1 節	スマート シティ像	43
第 2 節	住宅生活の将来像	44
第 3 節	通信インフラの整備状況	44
第 4 節	インターネットの利用状況等	46
第 5 節	今後の展望	50
第 5 章	スマート シティにおける超高齢社会の防火安全対策	51
第 1 節	超高齢社会における安全安心な社会の在り方	51
第 2 節	火災発生時に被害を軽減するための新たな対策	54
第 3 節	誰もがスマート シティで享受できる防火安全対策	60
第 6 章	推進すべき対策	63
第 1 節	継続的な防火安全対策	65
第 2 節	スマート シティ化までの防火安全対策	66
第 3 節	スマート シティにおける防火安全対策	68
第 4 節	今後の課題	
第 7 章	資料編	69
第 1 節	住宅火災事例集	69
第 2 節	住宅防火診断を支援するためのツール	99